



敗戦から間もない昭和二十二年（一九四六）の南海地震により、敗戦、地震、津波の三重苦を体験した人の話です。

「津波を知る人がいなくなった頃、津波が来る」と祖母から聞かされていました。昭和二十一年一月二日未明、不気味な地鳴りとともに大地震が起り、家を飛び出しました。焚き火で暖をとっていると、大波が国道を越え、怒濤渦巻きながらいろいろな物を運んできました。隣の納屋も木の葉のように猛スピードで流れていき、国道や堤防が次々と切断され崩壊していききました。浜田は泥沼の海になりました。それはほんの一瞬の出来事でした。地震や津波の計り知れない自然のエネルギーを前に、私はただ茫然と眺めるだけで、放心状態でした。

鵜地区が地震によって受けた致命的被害は、地盤沈下です。南海地震によって室戸岬付近が隆起し、他は全般的に沈降しました。海水の高さから考えると、地震前より五〇センチメートル位沈下したと言われていました。

沈下分を取り戻す嵩上げ工事が始まりました。まず、嵩上げに使う土を得るため、山へ行ってスコップによって表土を取り除き、山土をツルハシで掘ります。そして土を大八車で運搬するという、現代では考えられない全て人力の作業であり、その上寒中の氷が張る水中での作業で、本当に大変でした。

工事は昭和二八年（一九五三）頃まで続きましたが、沈下分を取り戻すことはできませんでした。以後、何年にもわたり何回も嵩上げ工事が繰り返され、農家の労力に加え、精神的、経済的負担はあまりにも大きく、長い間本当に苦しみました。

背景

阿南市鵜地区はV字型をした橘湾の湾奥部、福井川の河口に位置し、地震が発生すると、津波が猛烈な勢いで襲ってくる地形となっています。昭和二十一年（一九四六）の南海地震の時にも、この地に津波が大きな被害をもたらしました。その中でも深刻な被害は地盤沈下でした。地盤を元の高さに戻すため、地域の人々は人海戦術で大変な苦勞をしながら嵩上げ工事を行いました。

アクセス 鵜橋（鵜川河口）

- JR新野駅より北東へ直線距離約3km
- 阿南市橘町鵜
- 緯度経度 北緯33度51分26秒、東経134度37分38秒

